



第一次釜ヶ崎暴動から 変わったこと・変わらないこと

「咳が出るんです。段ボールを集めて回るのもしんどいです。歩くが大変です」Fさんは、咳のみながら訴えました。木曜夜まわりでのことです。

数年前とは全く見違えるように立派になった廃品回収店の前でFさんは野宿していました。「明日は病院に行こうと思うんですが...」この診察依頼券を持って9時に社会医療センターへ行ってください。」労働者Fさんと話しながら、15年前、協友会が越冬夜まわりにはじめて取り組んだ時のことを思い出しました。

三角公園の片隅で野宿する労働者は入院したいと話しかけてきました。聞くと本人は結核で排菌しているが入院できないと言っています。驚くと同時に、なすすべのない自分たちの無力さにうちめされました。しかしこの経緯は、その後、協友会が結核を活動の一つのテーマにする動機になりました。

それからも三角公園のような場面には、何度となく出でてきました。15年間に変化があったとすれば、さきのように「診察依頼券」を渡し、病院へ行くことを具体的に促すことが出来るようになったことです。

野宿する労働者は、病院へ行きたくてもお金の持ち合わせがありません。つい行きそびれてしまいます。そのとき、「診察依頼券」は大きな味方です。

「診察依頼券」は、労働者自身の闘いの中で獲得されたものです。労働者自身が自分たちの健康を守るために手に入れた権利です。わたしたち協友会も労働者の側に立った医療を求め、この権利を行使し育てる活動に参加してきました。もちろん「診察依頼券」で労働者の健康が十分に保障されないことは言うまでもありません。しかし、15年前にはなかった権利です。

一方、労働者Fさんのように15年後でもなお結核と思われる労働者が野宿を強いられている現実をどう受けとめたらよいでしょうか。

第一次釜ヶ崎暴動から三〇年

今年、「日雇労働者かて人間や」と労働者自身が声をあげた第一次釜ヶ崎暴動から三〇年目（一九六一年八月）になります。当時の資料や写真を読んだり見たりする限り、釜ヶ崎の外観は一変したと言えます。高層ホテルが建ち、三〇年前のいわゆるド



人を人として！今年も協友会の活動にご支援を。

協友会通信22

1991年12月

釜ヶ崎キリスト教 協友会

代表 中島文雄

連絡先

大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎キリスト教協友会
TEL 06-641-7183
FAX 06-634-2129

カンパ送り先

振替番号
大阪6-305599
釜ヶ崎キリスト教協友会

ヤを探し出すのが大変です。朝の求人風景も大型バスやマイクパスが並び、労働者の服装もスマートになりました。またこの労働現場にも外国人労働者が働いています。三〇年前には想像できなかった光景です。賃金も労働組合の活動で毎年一定の賃上げが実施されてきました。

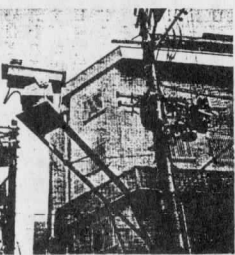
しかし、一歩踏み込んで現実を直視するとき、課題の山積みにたじまじします。労働者の高齢化、相変わらずの労働者の使い捨て、無権利の外国人労働者、日雇労働者と深く結びつく結核やアルコール問題関連症の未解決。表面的に繁栄する日本社会の内実の貧しさが、ここ釜ヶ崎ではいたる所に露出しています。これらの矛盾をなんとか押え込もうと管理体制が近年ますます強化されています。その一例は後述する監視テレビカメラに代表されます。労働者Fさんは「経済大国日本」の貧しさのしるしに思われます。元氣なときは酷使され、やがて病むと野宿生活を強いられるのです。その姿は、アジア各地からまたラテンアメリカから出稼ぎで来て、夢破れ、身も心もボロボロになった帰国して行く外国人労働者と二重写しです。外国人労働者の支援組織「アジアフレンド」の事務所がある旅路の里で、そのような労働者にしばしば出会います。これらの事実は、また、日本社会が誰の犠牲の上に成立しているのかをよく物語っています。

激変する世界の中で、資本主義が称賛されていますが、Fさんをはじめ外国人労働者の現実には接する限り、そんな気にはさらさらなれません。むしろこの冬もまた新たな闘いへと押し出されます。

小柳伸顕

関西キリスト教
都市雇用問題協議会

監視用テレビカメラの 撤去を求めて...



釜ヶ崎にある監視用テレビカメラ十六台の撤去をもとめて裁判をおこし一年が過ぎました。原告十二人、弁護士十八人という取組です。監視用テレビカメラが釜ヶ崎の中をくまなく監視しています。

西成警察署内にモニター室がありそこで監視しているのです。西成署内のモニター室での現場検証はただおどろきの一言です。四ツ辻の一角に取り付けられている監視用テレビカメラは四転をし、モニター室内のモニターテレビには四ツ辻が全部見わたせ映らない場所はありません。

映像に映し出された場面でアップの場合、人の顔が画面いっぱいになり、個人のホクロまでが分かるほどの。又、一つのモニターテレビには一般の会社の事務所が映され、そこで事務をとっていた女性の方がアップでとらえられていた。監視用テレビカメラのある場所では家庭の中で安心してくつろいでいても西成署内の監視の下におかれているのである。監視用テレビカメラで釜ヶ崎の皆さんの住む場所との違いをはっきり見ることが出来ます。あなたの住む場所でも監視用テレビカメラで監視されていますか？否です。日雇労働者が多く住んでいて働く場所だということだけで監視される必要がありますか？否です。

私達は公人に監視される必要がありますか？否です。公共の場で私達は監視される必要がありますか？否です。私達は人権を無視されていいですか？否です。公共の場でも私達は自由のほすです。この日本は自由社会です。独裁社会ではありません。公人はともすればゆきすぎるといふ危険性をひめています。公人が私達を監視するのはなく、私達国民が公人をよく見ていなければならぬのです。公人を監視していかなければなりません。この日本は公人を監視するということに欠けている国と言わなければなりません。私達はあまりにも大らかです。人々に対しては大らかであるべきです。しかし、私達は公人からなぜ監視される必要があるでしょうか？

それ由、私達は大阪府に対して監視用テレビカメラの撤去をまとめて裁判をおきました。人間の尊厳を求めて十六台の監視用テレビカメラの撤去を、そしてあたり前のことを言う為に、あたり前のことをしてもらう為に裁判までしなくては行けない日本の体質を問う為に...

渡部宗正
出会いの家

不況でも
外国人労働者と
共に生きる寄せ場を

最近、西成労働センターの窓口で労働者の口から外国人労働者について「なんで俺らの仕事を取るねん」「言葉が

今年も越冬夜回りをします。

ほとんどのグループは、夜回りに出発する前に学習会を開いています。参加者の多くはそこで夜回りだけでは釜ヶ崎の問題が解決されない事を知らせれるのと同時に、問題ひとつひとつが自分とどう関りがあるかを考えさせられます。

釜ヶ崎での医療の様々な不平等や不正、福祉行政の切り捨て対応は、労働者を野宿へ追いやり、結果として毎年100人以上の人が路上死を余儀なくさせられています。運良く病院や施設に入れても、ひとりの人格ある人間としてでなく、儲けの対象としてのモノのように扱われ、深く心を傷つけられた人がたくさんいます。

そういった釜ヶ崎の問題を自分の問題としてとらえ、どのように変えていくかを考える意味でも学習会の参加は大切です。単に夜回りのみの参加ではなく、かならず学習会に参加し、夜回りをせざるを得ない自分たちの「社会」の問題について考えてほしいものです。

夜回りなどいろいろな「社会」めざし、共に連帯をふかめてゆぐため、どうかこの活動にご参加下さい。

越冬活動日程(予定)

1月9日～2月末日 夜回り
3月15日(日) まとめとこれからの集い
喜望の家 P.M.2:00～

釜ヶ崎キリスト教協友会、夜回り予定表
(1月11日～2月末日)

曜日	集合場所	時間(PM)	電話番号
月	ふるさとの家	集合 9:00	06(641)8273
水	映光会 ※自転車でお出	集合 10:00	06(562)0086
木	旅路の里	集合 9:00	06(641)7183
金	喜望の家	集合 10:00	06(632)1310



藤原 昭
ふるさとの家

人を人として！今年も協友会の活動にご支援を。

通じんさかい危なくてしようがない」「規制でみんなのかしいうような苦情がよく聞かれるという。好況の中では出なかつた言葉が、ついにここに来て出てきたという感じですが。私たちは今、日本人労働者が外国人労働者との対立関係ではなく、不況の中でも共に生き、連帯して共に闘っていく基盤作りをし始める必要に迫られています。

アジア諸国を初め就労を目的とした外国人労働者の急速な流入は、日々の新聞紙上に載らない日はないと言つてよいほどのです。つい二年ほど前までは、釜ヶ崎はまだまだと言われてきたのが、現在は急激に状況が変わりつつあります。韓国からの労働者を中心に、早朝の労働センターでも、日雇労働の現場でも、日本人労働者が外国人労働者と一緒になることは日常茶飯事になってきています。

そんな中、景気のかげりが夏以降急速に強まりました。センターでは十月の現金求人数は前年同月比十九・八%減少、契約求人数も二十九%の大幅減少となっています。戦後最長と言われた好景気もはつきりと後退期に入り、真つ先に日雇労働者、特に年輩者がトカゲのしっぽのごとく切り捨てられていく運命にあります。早朝のセンターで仕事にアブレる彼らの立場に立ちつみるならば、彼らの不安や外国人労働者への愚痴も分かるような気がします。

しかし、だからといって、日本人労働者がアブレる原因が外国人労働者にあるとは言えません。両者は日本の産業社会の仕組みの中で共に底辺に位置します。都合のよいと

きさんさん利用され、都合が悪くなれば共に切り捨てられていく立場にあります。外国人労働者が日本人労働者として抑圧する側にあるのではなく、共に抑圧される側にあるのです。悪いのは日本社会の構造なのです。そもそも戦前、戦後を通して日本は移民の国でした。南米を初め多くの国々が日本人移民を受け入れてくれたことを忘れてはなりません。明治から太平洋戦争まで、韓国、中国、台湾、フィリピン、インドシナを侵略してきて、今やつと戦後補償問題も取り組み始めたというお粗末な有様です。さらに戦後の日本の経済侵略、開発事業によって、スラムで生活するか、外国に出て稼ぐしか生きる道のないアジアの民衆を作り出してきた事実を目をやらねばならないと思

います。差別的な入管行政、搾取、人権侵害の中にありながら彼らは日本に留まり続けて動こうとしています。動きたい気持ちは日本人も外国人も同じです。もし両者が対立するならば権力側(抑圧する者の側)の望むところとなつてしまふのではないのでしょうか。不況の中でも共に生きる寄せ場となつていけるようになるのがこれからの課題です。



釜ヶ崎からのパルス経済

年度始めの四月から梅雨期までの三ヶ月間を釜ヶ崎では、アブレ地獄といひ、年末年始の二〇日余りと共に労働者にとって重く、厳しい時期です。が、今年は例年と状況が異なり、昨年一〇月頃から仕事が少なくなり、今もいつから仕事が出てくるのかわからないままです。パルス経済の崩壊が景気動向に敏感な釜ヶ崎を、九〇%以上が建築・土木の仕事である釜ヶ崎労働者を直撃しているのです。昨年八月から今まで一〇ヶ月連続の前年実績割り込みで四月に至っては、四八%以上と一段と激しい求人数の落ち込みとなっています。で数字の上で判断して半分は求人あつて仕事に就けるのかといへば、否です。いくら早く三時四時にセンターに行っても求人の車がほとんどきていないのが現実です。その日に日当を貰う現金仕事だけでなく、一〇日間、一ヶ月間との契約仕事も全くなし、労働福祉センターの一職員は、「ロシアの百貨店と同じで開いているだけです」とつらそうにこぼしています。この状況の中で最も影響を受けるのが釜ヶ崎で一〇年、三〇年と生活している高齢者と病弱労働者です。就労できず、野宿を余儀なくされています。私たちの木曜夜回りでは、昨年の同時期に比べて三倍以上の野宿者を確認しています。阪堺線えびす町駅だけで一〇〇名を越え、今またなかつたことにショックです。三角公園で一人横になっていた人は声をかけると、「何も食べられないし、もう死んでもいいです」と言われ、結果的には何も出来ない私たちの夜回りとは一体何なのかと自問する日々です。炊き出しにも連日五〇〇人以上の人が二時間以上前から並び十一時・五時には、西成署を取り囲んでいます。

'85年の円高から始まったパルス経済は、'72年のオイルショック以上に日本の産業構成を変えました。そして日本人の価値観も、投機を目的とした土地ころがし、いつの頃からかTVニュースでも放送される様になりました。株・円の動き。そこには、物と金に支配された日本人をみることができます。パルスにははじけた。銀行・証券会社・不動産業者が泣いているらしい。釜ヶ崎では人の命が失われています。弱者を忘れた、考えない経済大国のすがたがあります。いつの時代も犠牲になるのは、農民であり、貧しい労働者なのです。(木曜夜回りの会)

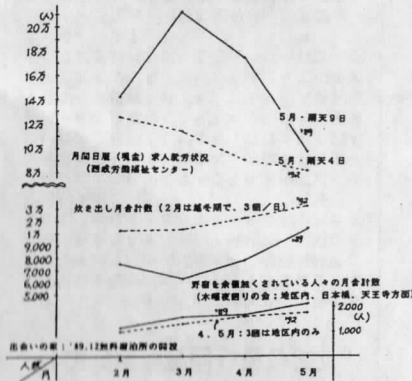
*仕事・野宿の調査はグラフ制作のこと

夜回りでお会いする労働者たち

不況になって、釜ヶ崎はそのしわ寄せがまっ先に、また誰よりも大きく影響を受けています。月曜夜回りは年間を通してですが、特にこの二か月、釜ヶ崎とその周辺だけで七百人以上、中央区、北区まで含めると四倍以上もの日雇労働者が野宿をよぎなくされている状況に私達は触れています。

人を人として・釜ヶ崎からの緊急アピール'92

就労・野宿者、炊き出しの数
—'89、'92年との比較—



梅雨期に入る前に、これほど多くの労働者が野宿を余儀なくされるのは近年に全くなかったこととす。労働福祉センターにおける求人数の減少が直接的要因です。仕事をし出してほしい」と訴え、身体のことより仕事のないことを心配する労働者が多いのも今年の特徴です。そして今、野宿者が年配者だけでなく、若い人にも及び、鉄筋工などの職人層にも及び始めています。

野宿者の問題は、労働問題であると同時に福祉問題でもありません。夜まわりして、食べていない人が多いのにも驚かされます。白手帳を持っていても二か月以上野宿をよぎなくされている労働者には、アブレ手当は無縁のものになります。梅雨期を前にして、労働者にとってはまさに生活の危機より生存の危機です。水ばかり飲んでいて、体が衰弱しきっている人にも出会います。このままでは、仕事が出てきた時、体力が消耗して働けなくなるのではと多くの労働者が心配している今日この頃です。

そして、労働者にとつて、こんな苦しい時に、南コーラス(釜ヶ崎地区内)では「しぎや」が横行し、労働者にとつてこれだけとは思ってはいかぬまで悪い取っ手ゆきます。「しぎや」としてはなんともしてほしくないというのが、労働者の切実な訴えです。西成警察は何をしようか。

釜ヶ崎問題は決して単なる個人の問題でなく、社会構造の問題、政治の問題です。私達月曜夜回りグループでも、協友会と協力し大阪府、大阪市にこの緊急事態に要望書を出すことを決めました。また月曜夜回りに有志で、労働組合や草の根の市民グループにも働きかけ、高齢者の仕事をかち取るために「釜ヶ崎で高齢者の仕事をかち取る会」を発足させ行政側と交渉するためのアンケート作りをするようになりました。(月曜夜回りの会)

*グラフを制作のこと

協友会通信23

1992年6月

釜ヶ崎キリスト教

協友会

代表 中島文雄

連絡先

大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎キリスト教協友会
TEL 06-641-7183
FAX 06-634-2129

カンパ送り先

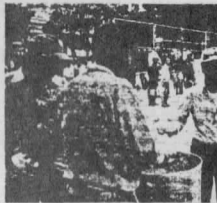
振替番号
大阪6-305599
釜ヶ崎キリスト教協友会

労働者の声から

炊き出しに並ぶ労働者の声を聞いてみましたのでここに紹介します。(六月十日朝十一時)

Aさん。六十歳。釜ヶ崎に来て二七八年になります。仕事はほとんど飯場(契約で長期出張)から行っています。飯場は入ると大体二、三年そこになります。今年有名古屋の小牧の飯場に五月十六日まで約八ヶ月間いたが、もういらぬと、放り出されました。それから毎日朝の労働センターに行くのですが、顔付けといって顔を知られた人しかバスに乗せてくれませんが、乗っけても降ろされます。何と言っても仕事がほしいです。

Bさん。四九歳。釜ヶ崎に。来て四年目、以前は朝センターで「行こう、行こう」と手配師が寄って来ました。いまは違います。飯場も満期になると古い人は残して、新しい人は「忙しくなったらまた頼むわ」でお払い箱です。飯場に入っても不況は感じました。朝飯場から釜ヶ崎に新しい人を迎えに行かなくなったからです。飯場でも三日間働きの一日休みといった具合です。仕事がなければ、飯場を出て来てからは野宿の生活です。足許をみられたら雇ってられないので、毎朝、ヒゲをそっていつでも仕事が出来ますよという顔して朝労働センターに行きます。飯場には半年間いて放り出されました。



Cさん。五六歳。釜ヶ崎に来て十年。足を痛めるまでは仕事に行っていました。二月からは足が痛くて仕事が出来ない(本人は三十分近く行列に並ぶのがつらく行列が終る頃に並ぶ。若い時はトビでしたが、いまは土工それも出来ません。市立更生相談所(釜ヶ崎労働者のための福祉事務所)に行くのですが、以前のトラブルのことで施設にも入れてくれません。野宿、炊き出しにたっています。働けない人は誰でも臨時の宿泊施設があったらいいと思います。

この日の朝十一時の炊き出しには早い人は九時から並んでいました。炊き出し開始は十一時。終わったのは十一時三十分。五〇三食でした。

炊き出しの会へ インタービュー

'92-6-10

午前11時近くになると炊き出しの行列は萩ノ茶屋中公園をぐるりととりまきます。この炊き出しを続けて来た「炊き出しの会」に近況を聞いてみました。

—もうどれくらい炊き出しは続いているんですか。
今年の12月で満17年になります。スタート以来、提供した食事は、今年5月末で約136万7千食になります。一年間平均すると約8万食になりますね。大変な努力ですね。この間の苦労は何かですか。
いまが一番厳しいと思います。1987年にも大変な行列でしたが、いまほどではありません。
—今日の状況は予想しましたか。
昨年のはじめ頃からジリジリと炊き出しの列に並ぶ人が増えてきました。それでも1回に100食を越えることはめずらしかったです。しかし、9月中ばで150食になりました。今年に入り4月上旬が200食、中旬が300食、下旬になると400食を越えるまでになりました。5月に入ると500食台が続きました。例年だと増えても連休中だけでした。5月31日にはとうとう1回で611食になりました。行列が公園をぐるりととり囲んでしまいます。
—すると準備も大変ですね。

はい。500人近い人たちの炊き出しは大抵ではありません。いまは日に2回、朝11時と夕方5時に出すためには、朝は8時から、夕方は1時から準備をはじめなければなりません。
—一人で炊き出しにあっていますか。
9人ですが、食器の洗いもありますから、炊き出しの後かたづけも大変です。
—いま、1日1回どれくらい米が必要ですか。
雑炊ですが、500人となると米30kgです。1日で60kg必要ですから、あつという間に米がなくなります。
—鍋になおすと何本ぐらいになりますか。
ズン胴の鍋で5本です。大が2本、中が2本、小1本です。
—炊き出しをやっている一番必要なことは何かありますか。
やはりお米がほしいです。この行列もいつまで続くか予想できませんし、安心して炊き出しを続けるにはお米ですね。とにかく長いこと炊き出しをやってきましたが、こんなに大勢並ぶのははじめての経験です。
—梅雨期になるともっと増えそうですか。
もっと増えそうです。1日3回しなければなりません。越冬期の炊き出しより大変です。越冬期の3回より今の2回の方が多いいんです。
—どうか身体に気を付けて頑張ってください。

人を人として・釜ヶ崎からの緊急アピール'92

大阪府・市への申し入れ

釜ヶ崎キリスト教協会以上のような事態を憂え、大阪府知事、大阪市長に緊急申し入れを提出し、回答を求めた。

申し入れ書

釜ヶ崎キリスト教協会(代表中島文雄)は、日常の諸活動および通年を通じて、いま釜ヶ崎が緊急非常事態にあることをみて、大阪府労働部および大阪市民生局に対して次のことを申し入れます。

- 一 早急に公共事業を起し、日雇い労働者に仕事を提供すること
- 二 仕事の供給が安定するまでの間、あいりん労働センターの一階部分を夜間開放し、野宿せざるを得ない労働者の便宜を図ること
- 三 不況の低迷がつづく間、新宮駅北側に設置されている空き地を借り上げて、臨時宿泊所を設置すること
- 四 急場をしのごために炊き出しを行なうこと

以下略(状況と申し入れ主旨の説明)
申し入れは六月十日、釜ヶ崎キリスト教協会を構成する十団体が揃って、大阪市民生局と大阪府労働部に直接訪ね申し入れ書を手渡した。大阪市民生局は生活保護課の六名が、大阪府労働部は特別対策室の四名が対応に出た。いずれも一時間ほど話しあい、労働部は「現状はよく認識している。企業に呼びかけ職業あつせん」の努力をしている」と答えたが、現状の認識にはズレがあり、後日話しあいの場を持つことを申し入れました。

カンパのお願い

釜ヶ崎の緊急事態に当り、越冬が終わったばかりの今、再び支援をお願いするのは厚顔とは思いますが、他に方法もなくみなさんの善意にすがることが結果になりました。少しでも結構ですから物質的援助並びに資金のカンパをお願いします。

— 援助物資

お米、調味料、食料品

送り先 大阪市西成区萩ノ茶屋二一八一九

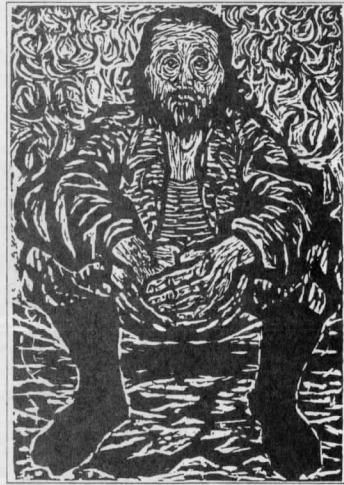
旅館の里気付 釜ヶ崎キリスト教協会

TEL:06-1401-1781 FAX:06-1634113

— カンパ(目標 二百万円)

送り先 振替番号 大阪六一三〇五五九九

釜ヶ崎キリスト教協会



第23回目の越冬から

「一人も死なないうち春を迎えよう!」仲間の団結で命を守ろう!」のスローガンで開始された越冬闘争も23回目となつていきます。長い年月の間には、幾度ともあった経済の波、70年万国博の反動不況、73年のオイル・ショック、86年の円高不況、そして今回の平成不況と云われるパブル経済のはじけ、円高不況は、86年11月が底であったとされていますが、釜ヶ崎で仕事が出るようになったのは、翌年の夏からで半年以上かかっています。昨年8月から前年度実績を割り込んで、すでに、16ヶ月、今の不況は、日本だけでなく全世界同時進行で、この状態は来年秋口までは続くかと予想されています。

新卒者の就職難、企業の倒産、パート労働者の首きり、空前の個人破産……暗く重い生活の中で、カラ出張で公費を受ける者。5億円!想像も出来ない大金をもらう政治、釜ヶ崎、弱者を忘れた、考えない経済大国がある。ここ、釜ヶ崎、炊き出しだけで生きていく人600人。今までにない厳しい冬、釜ヶ崎、個人の問題、地域の問題としてでなく、社会、政治問題として考えたい。

行政に対して

釜ヶ崎での行政の役割は、民生(生活保護、入院、治療など)を大阪府、労働面が大阪府、治安が大阪府警とされています。協友会は、6月に就いて10月に申し入れ(裏面)を行い、今までに市民生局と7回、府労働部と4回交渉してきました。申し入れ事項の4点として、高齢者に対する仕事として、公園、道路などの清掃による現金収入を得る道、ドヤ生活のままで生活保護宿泊券、食事券制度。これらは、山谷、寿では、特出し、法外援護(生活保護法外)の形で行われています。

なぜ、釜ヶ崎では出来ないのか。虚しいばかりです。その「交渉」といえるものでありません。府労働部は、他の自治体より多くの前倒しを行っている。府の発注工事に釜ヶ崎労働者の雇用を申し入れているとのことですが、4月には1日2千人の求人だったが9月に4千人となり(90年は8千人)未充足も出た、と現状を知ろうとせず、個人の問題にすり替えています。数字だけで判

今年の越冬夜廻り

パブル経済のはじけで野宿を余儀なくされている人は、釜ヶ崎地区区内で310人、天王寺、日本橋など周辺部で330人と昨年の4倍となっています。梅田、中之島公園など大阪全域では1,000人以上となっているでしょう。

この様な厳しい現実を前に毎年クリスマスの日から始まる越冬活動は、今年は9月からの釜日労による医療センター前での野営、週2回の炊き出しなど、すでに始まっています。例年の越冬活動では、越冬実行委員が12月25日から1月7日頃までの予定で行い、その後2月末日まで協友会が行っていましたが、今年は、下記の様に12月から行うことが決まりました。

多くの人が日本社会の問題、自分の問題としてこの活動に参加して下さることを望みます。

越冬活動(予定)

- 92.12月1日～
- 93.2月末日 夜廻り
- 92.12月31日～
- 93.1月3日 第18回越冬セミ
- 93.3月21日(日) まとめとこれから

釜ヶ崎キリスト教協友会 夜廻り予定表

曜日	集合場所	時間	PM	電話番号
月	ふるさとの家	9:00	06	(641) 8273
水	曙光会	9:00	06	(562) 0086
木	旅路の里	10:00	06	(641) 7183
金	喜望の家	9:30	06	(632) 1310
土	こどもの里	9:00	06	(645) 7751

※参加される方は必ず事前に連絡して下さい。

※尚12月25日から1月7日までは、越冬寒に参加しますので直接10:00医療センター前に集合となります。

釜ヶ崎からの緊急アピール'92. 冬

断して仕事が増えた、就けるのかとは全くいえませんが、センターに求人が炊き出しに並び、12月を前にして、連日、600人も人が炊き出しに並び、12月を前にして、も地区内で300人以上、周辺部でも300人と昨年の4倍となっている野宿者。大阪府は、いまだ特別な対策をせずに、出先機関である市更相(市立更正相談所)だけの対応しかやっていない。その市更相は、余りにも差別的、侮辱的で、又、相談に行くことにより卑屈にされる為二度と行きたくないとの労働者も多く、西成警察と並び嫌悪されている。次のことは信じられないが事実である。Aさん。73才。野宿が続く、体調が悪いので入院を希望したところ、実家があるなら帰れ」と言われ、お金がないと云う、「歩いて帰れ」と。

Bさん。55才。十数回市更相に通い詰めて、「どこでもいいから野宿しななくていい」と頼んだところ、「半年くらい出られなくてもよければさせてやる」と紹介したは精神病院で、Aさんは驚いたが、とにかく休めるところが欲しかったので入院。今、眼剂無しでは、過ごせない体になっている。

Cさん。43才。センターの医者が「じっくり検査する必要があるが、今は衰弱してできない。市更相を通じて寮に入り、通院しながら検査しよう」と診断したが、「青カシシながら通院させ、西成に来てまだ半年しかたってないから相談の対象にならない」と、実感する。殺人行政といふことが大げさでないのだと、労働者の多くは、釜ヶ崎が生活の場であり、死に場である。血の通った、ぬくもりのある対策が必要である。

問題の大きさと重さに余りにも無力な私たち。多くの人の参加と支えを必要としています。

- ① 現金カンパ
- ② 毛布タオル、石けん、二物着カンパ
- ③ 米・食用油・乾物、缶詰・野菜

※特に毛布を必要としています。年が明けてから送りたい先 大阪府西成区萩ノ茶屋2-8-9 釜ヶ崎キリスト協友会

協友会通信24

1992年12月

釜ヶ崎キリスト教

協友会

代表 中島文雄

連絡先

大阪府西成区萩ノ茶屋2-8-9

旅路の里気付

釜ヶ崎キリスト教協友会

TEL 06-641-7183

FAX 06-634-2129

カンパ送り先

振替番号

大阪6-305599

釜ヶ崎キリスト教協友会

緊急抗議申し入れ書

(一部省略)

大阪府知事
大阪市長 殿

釜ヶ崎キリスト教協友会は、この度の、釜ヶ崎の労働者に対する市立更正相談所の人権をふみにじった処置と、警察機動隊の投入ならびにその挑発的な示威行動によって誘発された労働者の怒りの行動と、「騒動鎮圧」の名目でなされた労働者に対する数々の不当な拘束、逮捕、盾と特殊警棒による暴行傷害の責任を、大阪市民生局、大阪府労働部に対して、きびしく追及します。

わたしたちは一九九二年六月十日、大阪市長民生局、大阪府知事(労働部)に対して申し入れを行なつて以来、再三にわたつて(六月十・二十九日、七月三・十七・二十二・三十一)釜ヶ崎の緊急事態を訴え、早急に適切な対策を打ち出すよう要請してきました。申し入れ事項は次のとおりでした。

- 一、早急に公共事業を起し、日雇い労働者に仕事を提供すること。
- 二、仕事の供給が安定するまでの間、あいりん労働センターの一階部分を夜間開放し、野宿せざるをえない労働者の便宜を図ること。
- 三、不況の低迷がつづく間、新今宮駅北側の放置されている空き地を借り上げて、臨時宿泊施設を設置すること。
- 四、急場をしのぐために炊き出しを行なうこと。

しかも、行政がなんらかの具体的な対応をしないかぎり、いつ暴動が起こっても不思議ではないと、そのつどわたしたちは警告してきました。

この度の釜ヶ崎の労働者の怒りの行動は、まず第一に、仕事がないこと、仕事が公平に配分されないことへの抗議の気持が根底にあります。したがってそれは大阪府労働部とあいりん職安の無能さと怠慢に対する抗議であり、行政全般に対する怒りであると言えます。府労働部は釜ヶ崎に「公共職業安定所」を設置していながら、職業紹介の責務をまったく果たさず、単に「相対方式」と称して暴力団関係の斡旋業者に職務を代行させ、雇用サイドの利益だけを基準に労働者を取捨選択するにまかせてきました。それだけではなく、労働部が同所での暴力団員による賭博を黙認して労働者の搾取に事実上加担するなど、府の行政体質が暴力団と癒着していることも労働者の怒りをおおっていることを、十分に自覚してほしいと思います。

労働者の怒りを直接引き起こした市更相(市立更正相談所)並びに市民生局の兼え切らぬ姿勢と差別対応は、絶対に許されるものではありません。七月二十二日大阪府役所の地下会議室でなされた民生局福祉部の木戸保護課長は、「わたしどもは釜ヶ崎の緊急事態に対して市立更正相談所をとおして対応いたします」相談に来られた方が資金がないということが断られることがないように、十分に用意しておきます。これだけはいはつきりみなさまに申し上げることが出来ます。しかし市更

冬'92の緊急アピールから・人として

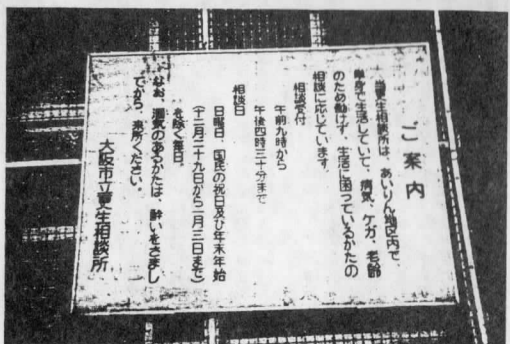
相の対応は従来と少しも代わらず、高齢や病弱のため数か月にわたつてアブレつづけ、野宿と栄養失調でふらふらになっている労働者に対してすら、はるか以前の貸し金の返済が済んでいないからという理由で、相談を打ち切り、徹底的、差別的なことばと態度をもって追い返すというのを、くりかえしてました。十ヶ月におよぶアブレ地獄の中で、いったい、どのようにすれば借金が返せたのでしょうか。

その後、釜日労のよびかけで、五百〜八百人をこえる大勢の労働者が連日相談窓口を押し掛けるようになると、組合は宿泊券および食事券を要求しているにも関わらず、市更相はわずかずつ金の配つてその場しのぎの対応に、二週間もしないうちに資金切れという理由で、一方的に相談窓口を閉鎖しました。労働者が怒るのは当然です。当然の怒り、抗議に対して、市更相は誠実に応えようと努力するどころか、機動隊を招請して力で抑えこむ道をえらびました。いまの超大型不況の中で、そのしわ寄せをもつとも敏感に、もつとも強く受けている釜ヶ崎の事態に対して、通常時の職務すら満足に果たしていない市更相が、対応しきれないことは初めから分かっていたはずで、行政側がなんの対策もなく、このまま冬期をむかえるなら、事態はいよいよ深刻です。二万五千人の労働者の少なくとも半数以上の人々は、すでに長期にわたつて仕事にアブレ、十分な食事も取れないままにきており、体は衰弱しています。野宿を強いられている労働者はおおさらです。このままいけば、凍死、衰弱死による死者の数は予想もつきません。

わたしたちは、ここに、府労働部と市民生局の釜ヶ崎差別の姿勢につよく抗議するとともに、今一度、大阪府と大阪市に対して、六月十日に申し入れた四事項の再検討とその実施を要請します。

一九九二年十月二十日

釜ヶ崎キリスト教協友会





人を人として

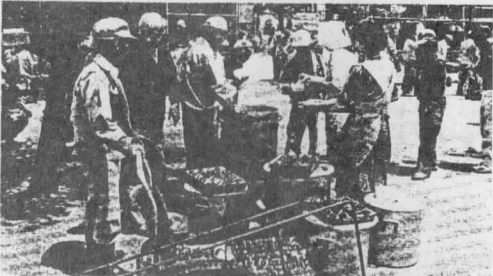
お元気でお過ごしのことと存じます。
 昨年夏は炊き出しの緊急カンパ(お金と米)にご協力くださりありがとうございました。
 五、〇二七、八〇九円(92・659)集り、計三、三〇三、九九円と米を炊き出しを行っていた三団体(釜ヶ崎炊き出しの会、いこい食堂、釜ヶ崎高齢日雇労働者の仕事と生活を勝ちとる会)にお渡ししました。残額は越冬闘争の方へ繰り入れさせていただきました。あらためて感謝申しあげます。

十八年目に入った炊き出し

一九七五年十二月十日から一日も休まず炊き出しは続けてきました。当初は財政的に非常に厳しく、麦の雑炊、味つけは塩だけの状態だったのですが、炊き出し活動を支援して下さる方々の輪が広がり、数年前より米を用いて味噌も使えるようになりました。しかしに並ぶ労働者が急増し、一回の炊き出し数が四〇〇食、五〇〇食という日が続いております。一日に使用する米は五〇kg、味噌は七kg、長びく不況で炊き出し数も減らぬ現在、米味噌を購入することも厳しくなりました。炊き出しは仲間どうしの助けあいとして、何とかこの困難な状況を乗りきろうと毎日がんばっております。昨年協友会の方から寄せられたカンパは実質的な励みとなり本当に助かりました。ありがとうございます。「生きて花咲く春を迎えよう」を合言葉に今日も一日三回の炊き出しをおこなっています。どうぞ今後ともよろしくご支援をお願い致します。
 (釜ヶ崎炊き出しの会)

自分たちの生活を見直す

いこい食堂は、これまでも不定期でしたが労働者への炊き出しを「炊き出しの会」と合流する形でやって来しました。五年ほどに



萩之茶屋中公園での炊き出しの会の活動
 ▲おにぎりを作る南大阪教会の女性たち



協友会通信25

1993年2月

釜ヶ崎キリスト教

協友会

代表 中島文雄

連絡先

大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
 旅路の里気付
 釜ヶ崎キリスト教協友会
 TEL 06-641-7183
 FAX 06-634-2129

カンパ送り先

振替番号
 大阪6-305599
 釜ヶ崎キリスト教協友会

'93冬

釜ヶ崎からの報告

定期的にするようになったのは、昨年(一九九二年)四月からです。六月からは、日本キリスト教団大阪教区等の諸教会の支援もあり週三回できるようにになりました。南大阪教会、希望ヶ丘教会、須磨教会、奈良友の会が軸になり、東十三教会、京都教区婦人部、泉大津教会、いずみ教会、久米田教会、龍取会、土師教会、在日大韓賛教会、パプテスト中央教会などが参加しています。十時頃に集りおにぎりを四五〇個(多い時は七〇〇個)にぎり昼食時に出します。
 炊き出しは、この活動を通し教会婦人や教会自身が自分たちの生活を見直し変えることを大切に行っています。「食べていただく」でありがとうと言えるキリスト者になれることを願っています。
 (いこい食堂・金井愛明)

高齢日雇労働者の叫び

「釜ヶ崎高齢日雇労働者の仕事と生活を勝ちとる会」が昨年四月にスタートした。通称「勝ちとる会」であるが、五、六月に野宿している高齢労働者へのアンケート調査を実施。七月からはその結果を踏まえて三角公園で毎週土曜日の「ごんぶり炊き出し」をしている。「仕事がいらい」というのが現在の釜ヶ崎の高齢者の叫びである。実際アンケート調査でも、九割近くの高齢者(50才以上)が「仕事があれば、つきたい」と答えている。朝のセンターでの「顔付け」手配で就労から締め出されても、行政は全く無策だ。「勝ちとる会」は、労働者の権利を守り、生存権さえ奪われている釜ヶ崎の高齢労働者の生活と仕事を勝ちとってゆくことを目的とする運動体である。越冬では「炊事班」として参加、十二月からは協友会の協力のもと、水曜日も炊き出しをしているが、現在毎週金曜日夜に集まって、高齢者の仕事を獲得するための学習会をしている。援助と協力者を募集中。
 (勝ちとる会)

トピックス

一五〇三人対一一三九。上が年末の臨時宿泊所に申し込んだ労働者、下が入所できた労働者の数である。二度申し込んだ労働者もいるが延べ三〇〇人以上が入所できなかった。ちなみに'92年12月30日、野宿を強いられた労働者は、釜ヶ崎周辺で三六九人。

仲間の戸塚さんが29日('92年12月)に救急車で大中(注・釜ヶ崎の労働者が九〇%運ばれる救急病院)へ行ったが、酔っていることが追い出され、その後治療してくれる様に頼んだが、その度に進み出された。その後、大中前で倒れて、それを大中の従業員等が見ながら翌30日朝まで放置し見殺しにした。(二日刊えつとう) 第8号 一九九三・一・二)

求人(現金)は、単純平均比較で'90年12月に対し'92年12月は五三%減。数字で示すと六〇九九対二八五二。(西成労働福祉センター調査)

1月2日、萩之茶屋市営住宅で火災が起きた。梯子車三台を含め消防車一八台、救急車三台、ガス会社、電力会社の車各一台が駆けつけた。しかし、不思議なことにパトカーは来ず。制服警官が二人一番あとに自転車でのこごやつて来た。釜ヶ崎の警察が市民生活を守るためにないこの象徴のような出来事

越冬実地臨時宿泊所の延長打ち切り1月7日閉鎖に対して次のように呼びかけた。
朝九時市更相窓口へ押しかけよう
南港臨泊閉鎖、自強館入所打ち切りを許すな
●1/5市民生局の打ち切り通告にやりかえせ
●高齢日雇対策の宿泊所を地区内に設置せよ
●日雇い使い捨て野たれ死に攻撃と闘おう。

パトロールしながら人数を数えていると、「ひとり、ふたり……」というより「いち、にいさん……」とまるで物を数えているような変な気分になってきて、人間を見ながら通過していける自分が恐い。(越冬だより)一九九三・一・一七 第一号より)

一〇九人。この数字は一九九〇年度、釜ヶ崎地区内での行旅死亡人である。行旅死亡人中、死因「肺結核」と記入されている人が四人もいる。詳しくは、昨年末発行された『釜ヶ崎白書'89'91』釜ヶ崎キリスト教協友会編一八〇〇円を参照されたい。申し込みは、協友会事務所まで。

越冬期にむけて協友会へのお金、毛布等のカンパありがとございます。12月末で、約九〇〇万円が寄せられました。詳細は、「越冬報告書」等で報告いたします。

'93年釜ヶ崎の正月風景

▼協友会越冬セミナー



夜まわりは、仕事が出ないことに合わせて3月一杯します。

「まとめ集会」は4月18日(日)1時、喜望の家で行います。

釜ヶ崎キリスト教協友会 夜回り予定表

曜日	集合場所	時間	PM	電話番号
月	ふるさとの家	9:00	06	(641) 8273
水	曙光会	9:00	06	(562) 0086
木	旅路の里	10:00	06	(641) 7183
金	喜望の家	9:30	06	(632) 1310
土	こどもの里	9:00	06	(645) 7751

夜回りのお誘い

'92'93 越冬日録

釜ヶ崎キリスト教協友会越冬活動の夜まわりはじまる。炊き出しの会も一日三回の越冬態勢に。
第23回釜ヶ崎越冬闘争支援連帯集会 越冬実地、越冬の諸要求をかがげ釜ヶ崎から大阪府庁までデモ。大阪市民生局今日から連日地区内を巡回。
協友会大阪市民生局へ。協友会其他、所の間延長を申し入れ。越冬実地、越冬の諸要求をめぐり市と交渉。
越冬闘争突入集会(三〇〇人)。パトロール、資材、炊事、警備、広報、医療の各班活動開始。日刊えつとう。第一号出る。医療センター申し入れ。大阪市民臨時宿泊所受け(30日まで)。越冬実地、市の臨泊打ち捨て(一五九人)に抗議し夜集会を持つ。集会後人民、パトロール(一月三日まで)。協友会越冬セミナー(一月三日)。越冬まつり(文化体育班担当)はじまる。三日まで続く。
市の不当な「越冬対策」に抗議集会。市に「臨泊を延長しろ!」高齢者、病弱者、生活困窮者の保護を行え! 仕事をせせとデモ。
市は臨泊延長の要求を無視し打ち切る。越冬実地、市立更生相談所に臨泊を追い出された労働者の生活扶助を要求。
越冬実地活動終了。越冬実地としての医療センター前の布団敷きは終るが、十一日から釜日分の反失業闘争として布団敷きはじまる。
協友会越冬実地引き継ぎ月・水・木・金・土の夜まわり再開。十二日から始まった水曜日の炊き出し継続。例年だと仕事が出るが相変わらず不況。毎日放送ドキュメント「厳冬・釜ヶ崎」放映。パブル経済崩壊で野宿を強いられた労働者に焦点。

えっとうだより

NO. 6・92.2.20・釜ヶ崎キリスト教協友会・641-7183

今週の野宿者

日	天気	総数	北	南	天王寺	日本橋	その他	参加人数
2/13 (木)	金中から雨	308	22	61	112	113		20
14 (金)	はれ	369	43	51	120	114	長堀橋地下 駐車場 41	47
15 (土)	雨	303	40	41	127	95		42
17 (月)			36		96	69	山王 6. 花園 8 梅田	

〈行路死とパトロール〉

日雇い労働者の街・釜ヶ崎では、厳冬の行路死を余儀なくさせられている労働者の命を守るためパトロールが続けられている。しかし、いくら毎晩夜中にパトロールをして温かい味噌汁と毛布を手渡したとしても、労働者の行路死は年々ふえている現実を知らされる。

高齢化と弱者が厳冬で野宿を強いられることは、常に生命をたにれる危機状況に在る。夜回りの時間帯は無事であったとしても、命が守られるという保障は無いことを知る時、毎年越冬パトロールを終え、今年は無事に過ごせたのだろうかとの思いは一瞬の内にも消され、多くの労働者がとくなられていることを聞かされる時、無念さと自らの無力さを知らされる。特に日常的に関わっていた労働者の死を知らされる時、その死は身近な問いかけとして何とか出来なかったのだろうかと自問される思いもある。

ここ数年間好況の中で労働者は仕事がある間に体をむち打ち、無理無理仕事に出る。過労で体は限界になりつつも働き通す中で、体を少々休めても修復不可能にまで追い込まれている労働者が増えている。

しかし医療、福祉面での待遇は厳しく、特に釜ヶ崎では、働けなくなれば使い捨てられていくという社会構造を見せつけられる。

今まで好況だった時は、仕事で体を悪くしていても仕事に出ること二重三重と体にムチ打っていた。ところがバブル経済の崩壊で去年の夏頃より仕事が無くなり、特に高齢者や弱者は除外される中で行路死へと拍車がかけられている状況にある。

いつも弱い状況にさらされる時、寄せ場の行路死が増えるのは、政治上の労働政策の貧困と福祉政策が寄せ場とは無縁である日本の福祉対策の貧困と差別を知らされる労働者と共に見ずえで闘っていかねばならない。

(1)

越冬だより No.1

1993.1. 釜ヶ崎キリスト教協友会 TEL 641-7183

今週の野宿者

日付	天気	総数	北	釜ヶ崎	天王寺	日本橋	その他	参加人数
11月	はれ	445人	24	247	74	100		
14木	雨	562人	108	132	119	131		
15金	雨	671人	160	160	98	243		21人
16土	晴れ	人	101		77	195		大人13人 子供8人

“道の真中の論理—人生で大切なもの”

バブル経済崩壊後の釜ヶ崎の状況がマスコミによく取りあげられている。昨年12月と1月に入ってから黒田清と作家、黒岩重吾の著名な2人が釜ヶ崎の状況、労働者のことを書いている。日刊スポーツと日本経済新聞でどちらも偶然見付けたものである。余りにもちがう想い、捉え方に考えさせられた。

“不況のしわよせと高令者で”の中で黒田清は、「不況賛成派だ。バブルの時代が長く続いたので、私達社会に、大切なコトをええ加減にしてしまう風潮ができてしまった。それを反省する意味で不況もいいと思うが、社会の真中あたりに言えるが、不況の風が吹きだまる所のことを考えると、なんとかならないかという気になる。」そして釜ヶ崎の高令者の現状を述べた後、こう書かれている。

「自分から、それまでの生活を捨ててここに集まったのだから自業自得だという人

がいる。それは、道の真中にいる人の論理だ。道の端、こに追いやられた人達が、川に落ちるのを見ていていい訳がない。このままなら、弱者は切り捨てられて死んでゆくことになる。」と。

現実を前に、無力さともどかしさの中から弱者への想いを感じた記事。

一方、黒岩重吾は、「人生において、意志と努力が90%で、運はそのプラスアルファだと思っている。天運を持っているに越したことはないが、意志と努力さえあれば、どんな不運な人でも人並み以上のことができる。釜ヶ崎で生活したことがあるが、その住人の中には、人生で一番大切な闘争心が欠けている人もいた。酔いばらして道端に寝転ぼうと、働かず一日中ぼんやりしていようと、とがめだてる人もいない。ただ食べて寝るだけの“ぬるま湯”生活にとらふりをつかり、抜け出

そうとする意志もない。それでは、例え天運に恵まれても無馬な人生だ。サラリーマンに対して厳しい時代だ、甘えを捨て去り、闘志を持ってぶつかっていく時だとハッパをかける材料に釜ヶ崎の人たちが使われている。

——人並みとは、どんなことか。

——人生で一番大切なものは、闘争心か。

淋さとイカリがこみ上げる内容である。

弱者を作り出すことが自分の支えになっている人は、少なくない。

しかし、それは淋しいことだと思う。

夜回りを通して釜ヶ崎と関わっていますが、外で寝ている現実を不幸なことだけにしてしまわないで不正義なこととして捉えたいものです。

この週刊越冬を、意義あるものにしたと考えています。皆さんの釜ヶ崎に対する想い、意見などをドンドン出して下さい。

<F・N>

各グループの報告と感想



月ようびり



臨時宿泊について。

この施設のことについて、大阪市民生局の方にお聞きした。

1970年の暮から始まり、南港に移ったのが、1975年。

宿泊期間は、12月29日から翌年1月7日までの間。(年末年始は、仕事がい休みの間のみ)受付は12月29・30日の2時まで。

宿泊できる人は、「あいりん地区」に住んでいる日雇労働者で、日雇労働保険(手帳)を持っている人ならば、誰でも泊まることが出来る。定員は1400名。(今年は約1500名が宿泊。)

建物はフレハブが出来ていて、7日を過

ぎれば直ちに壊すぞうだ。(大阪市民生局が、港湾から借りている借用地なので)

食事(朝・昼・晩)はきちんと有り、お風呂も入れるので、日常生活には困らない。

日常経費のことをお聞きしたが、はっきりわからなかった。

以上、民生局の方からお伺いする限り、「とっても快適」のイメージだけど、労働者の方に聞いた話とは、ズレがあるように感じた。

確かに、食事が出来て、お風呂に入れるのは善いけれど、面白くない。

越冬だより 1993. 3/21 NO10.

釜ヶ崎キリスト教協友会 TEL 06-641-7183

今週の野宿者数

日付	天気	総数	北	釜ヶ崎	天王寺	日本橋	その他	参加人数
3/15日	晴れ	487人	91	233	61	102		
18木	晴れ	463人	81	118	72	192		25人
19金	晴れ	599人	90	152	133	224		23人
20土	曇り	493人	78	147	113	145		子供16人 大人35人

今年最後の夜まわりを終えて。

3月20日に土曜日の夜まわりが終った。この日は北九州にある解放同盟の各支部から21名程の方が来られてました。16~30才位までの人が。んで、私が学習会の担当をさせてもらった。表をもちだして、職種のこと、状況のことを話させてもらったけど、緊張してあまりちゃんと説明ができてなかったらしくて、ねーはんがレポートしてくれてた。

自分の気持ちの変化みたいなのを話すと、7年目だという事もあって、なんだかおっちゃんの体調の事以外にも考えていかへんと、いかんと思ってる。最初の頃

はただ「物を配る」という感覚であった。人が道端でせくなるとか、ドヤでせくなるとかがどうい事がわかってなかった。いつだったか今年のもっとも寒い時期の木曜日の夜廻りの時、南まわりを廻っている時に、すごい体中震わせて道の端で座わりこんでいる労働者がいた。その姿を見た時、自分の体が勝手に重かいて、おっちゃんの側にいって毛布をかけてみよ汁を渡した。自分に言い聞かすように「大丈夫やから。」と何度も言いながら…涙が出て仕方がなかった。同じ人間であって同じ所に住

んでいるのに、なんでこんな違
うんかっていうカンジ。こういう
現実を知らへん人がある。沢山
…。日本にもいてるんやぞと、あ
るんやぞと伝えたい。あだし自
身ももって沢山の事を知って
いかへんとダ×やけど。

300～600人の野宿労働
者の人達はたいてい明るい。
自分で好きに野宿している人
もいてるだろうし、今では皆が
皆大変なんだとは思っていま
せん。でも、やっぱり保障する
のが市や国の役目だと本当に
思っている。今、ここでブツブツ
言っても仕方がないんだけど。

—こども夜まわり(今は違
うらしいが)をやっていた良かった
事はといえば、子供達がおっ
ちゃんとお接する時のおっちゃんらの笑
顔というか優しさが見えた事
です。(まあ、あたしも昔は子供だ
たけど。)

今年、土曜夜廻りが初めて一
緒に廻った112の子供が帰り
際に、おっちゃんに「おっちゃん
ホニマに来てや。待ってるからね。」
と言った事からそのおっちゃん
は、アパートに入りたいと来られ
ました。「あの子おらんけど、あ

の子が言ってくれたから来た。」
と。そういう意味でもやっぱり
おっちゃんら自身の子供、子系を思
い出してあの笑顔を見せてくれる
んだらうな…と思う。

おっちゃんらを取りまく状況
等は何ひとつ7年前とは変わっ
てへんし、バブル崩壊(おき
り知らんが)以後、ひどくなって
いると思います。ささいな事でケ
ンカしたりとかいうことも増え
るらしくて、「おさんでいる」部分
も多々あるみたい。シノギも多
いし…。‘人情’という言葉が
似合ってた町‘釜ヶ崎’が薄
れかけているんじゃないかなと
誰かが話をしていました。

これからもここに住んでいく人
間として、今まで通り以上にお
もしろおかしく生きていきたいと
思っています。毎年、夜廻りが
終わったから…と言って、おっ
ちゃんらとの関わりがなくなると
かなく、夜廻りが終わったからこ
れからも色々な形で接してい
こうと思うし。

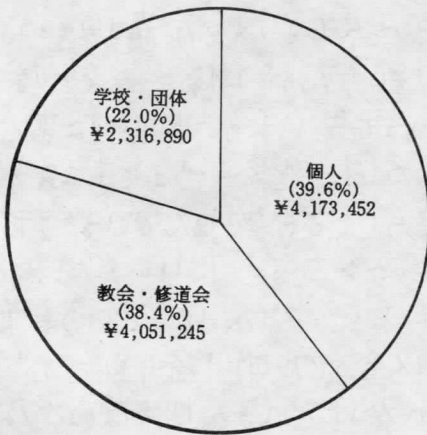
土曜夜廻りの皆さんお疲れさん
でした。

1993, 3.21 < J・O >

いつも協友会の活動をおぼえ ご支援くださり感謝もうしあげます。

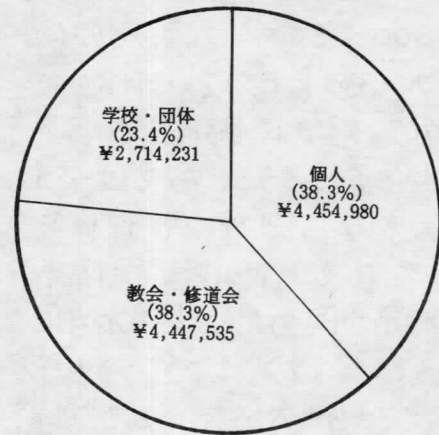
1991年度

¥10,541,587



1992年度

¥11,616,746



地域別	個人 (件数)		教会修道会 (件数)		学校団体 (件数)	
	'91年	'92年	'91年	'92年	'91年	'92年
大阪	122	91	86	92	11	14
近畿	117	87	141	145	23	36
中国	27	26	26	27	4	9
四国	11	6	14	11	1	4
九州	60	30	40	41	9	13
東海	26	22	2	3	0	2
北信越	20	13	2	0	1	1
東京	52	32	10	12	11	13
関東	63	48	6	5	1	4
東北	32	23	5	5	1	0
北海道	11	4	3	4	0	0
海外	0	0	1	0	0	0
合計	541	382	336	345	62	96

釜ヶ崎は末層有の不況が支配しています。

釜ヶ崎在住20年のベテラン労働者さえ、こんな苦しい経験ははじめてとっています。

昨年は越冬が終るとすぐ不況との取り組みがあり、越冬報告書を出すことができませんでした。しかし、炊き出しへの緊急呼びかけには500万円を越えるカンパがあり炊き出し活動を支援することができました。ありがとうございます。

今年は、二年間にわたる募金結果を報告いたします。事情を察し、募金活動にご協力ください。

不況はまだまだ続き、労働者をたたきつぶしそうです。(会計)

編集後記

昨年、越冬報告書をだせなかつた。準備をしていながら……

2年分という形でも出来たことに正直なところホッとしている。

しかし、現実には、昨年6月の協友会通信 緊急アピールを出した

時以上に状況は悪くなっている。全く仕事のない中、野宿を余儀なくされている人は、千名をはるかに越えている。今までも幾度のな

く不況に見舞われてきたが、こんなにもひどくなかった。木曜夜廻りでも4月からおにぎりを持って廻るのをやめていたが6月になつて新たに始めた。渡すという関係

「おうきに」「ありがとう」の感謝の言葉の中に、卑屈さを感じ（思い過ぎだろうか）抵抗があるのだ

が、1日2回の炊き出しだけで、かろうじて生きてる人にそんな意識は関係はない。多くの矛盾と限界の毎日である。

釜ヶ崎からの報告が悲惨な訴えが多いことはつらいこと。N・F

いわゆるバブル経済の崩壊という事が言われて久しいが、いまだに景気の回復の兆しは見えそうにはいって、釜ヶ崎でもこの4月に

や、炊き出しに並ぶ労働者が急増している。

今の釜ヶ崎の状況は、日雇労働者というものが、つまるところ行政にとっては使い捨ての存在にすぎないという事をはっきりと示している。こういった中どういった

働きの協友会には要求されているだろうか？

現実的には、飢え、病んでいる労働者が多い中、そして行政がそういった労働者に対して何の対策もたてようとしない現状の中、炊き出しや医療の活動は、やらざるをえない。

しかしながら最終的には行政を動かして行くような運動を作り上げるべきだと思ふし、そのために

も日常的に、釜ヶ崎の状況を分析し記録しておく必要があると思ふ。

今年、国際先住民族年です。越冬の夜のまわりのときBさんに出会いました。北海道出身のアイヌです。いつも「大丈夫」と言うのにその日に限ってシンドそうでした。隣りに寝ている人が救急車を呼んでほしいと言います。

救急車が来るとBさんは「おれも救急車に乗りたい」と言うのです。めずらしいなアーと思いまし

た。いつも入院を勧めても「大丈夫、大丈夫」と言っていたからです。翌日、搬送先の病院に問い合せると結核のため、結核病院に送られたとのことだ。

自然と共生する民族アイヌが、いま大阪のコンクリートの路上で野宿し、廃品回収で生計をたててきました。その人が、結核で入院です。まだ40代と聞きました。

このBさんの中に日本社会のアイヌ民族差別が凝縮しています。

協友会通信26 ('92越冬)

- 発行日 1993年7月10日
- 発行所 大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
旅路の里
- 編集 「協友会通信26」編集委員会
- 印刷 (有)木村桂文社